

# ベンチャー・技術教育への経済・経営感覚導入に関する一検討

有明工業高等専門学校 ○森山 英明 清水 暁生 相賀 宏 石川 洋平 菅沼 明

永利公認会計士事務所 永利 新一

## 1. はじめに

イノベーションの連続的な創出の喚起及び、経済構造の改革を狙い平成13年度に制定された「大学発ベンチャー1000社計画」は平成15年度末には既に達成に至っている。現在では、ベンチャーブームが去り、淘汰と再考の時期を迎えている。

大学のベンチャー設立支援の意義としては「大学の技術・知財の還元・事業化（約60%）」「地域社会や地域経済への貢献（約20%）」となっており、大学シーズ型ベンチャーと地域ベンチャーで全体の約8割を占めている<sup>[1]</sup>。

起業にあたっては、人材の確保・育成、資金調達、販路開拓が大きな課題であり、大学・高専等においては、現在までその効率的な手法はあまり確立されていないようである<sup>[2]</sup>。

有明高専では2009年よりベンチャー・ビジネスプランコンテストに参加しており、福岡・佐賀のコンテストで4年連続入賞を果たし学内での認知度も上がってきた。

しかし、その指導者不足と指導方法について多少の問題が生じている。

本発表では有明高専のベンチャー教育の実績を紹介し、その後、工学系の教員がベンチャービジネスプランに関して指導する際に重要となってくる経営・経済感覚のスキルアップについて検討し、それをベースに発足させた勉強会について報告する。

## 2. 有明高専におけるベンチャー教育の実績

有明高専では2009年より大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト（以降、VBPC）に参加している。2009年は初参加ながら準グランプリにあたる九州経済産業局長賞、2010年、2011年は優秀賞<sup>[3]</sup>と3年連続で受賞（図1）している<sup>[4]</sup>。また、2012年は佐賀ビジネスプランコンテスト（以降、佐賀BPC）に出場し金賞（図2）を受賞し（卒業生で佐賀大学大学院に進学した野口卓朗氏がグランプリを受賞）、表1の様に、両コンテストを通して4年連続の受賞を果たしている。



図1 2011年優秀賞（実機実演）



図2 2012年金賞受賞（剣道実演）

表1 コンテスト実績（2009 - 2012）

年度	コンテスト名	プラン名	受賞名
2009	第9回VBPC	携帯電話に特化した 理学・作業療法士コミュニティの構築	九州経済産業局長賞
2010	第10回VBPC	表面筋電位を用いた身体障害者支援システム	優秀賞
2011	第11回VBPC	技術教育を組み込んだ 福祉機器の開発・販売事業	優秀賞
2012	第8回佐賀BPC	剣道用靴下 -より安全な剣道を-	金賞

表 2 教経会の開催実績

開催回数	開催日	内容	担当
キックオフ	2012/11/5	顔合わせと今後の打ち合わせ	石川
第 1 回	2012/12/4	論語と算盤 第 1 章	石川
第 2 回	2013/1/22	論語と算盤 第 2 章	森山
第 3 回	2013/2/19	論語と算盤 第 3 章	森山
第 4 回	2013/3/25	論語と算盤 第 3 章、第 4 章	清水
第 5 回	2013/4/30	論語と算盤 第 4 章	清水
第 6 回	2013/5/27	論語と算盤 第 5 章	菅沼
第 7 回	2013/6/18	論語と算盤 第 6 章	相賀
第 8 回	2013/7/25	論語と算盤 第 6 章、永利氏より日本経済に関する講義	相賀・永利
第 9 回	2013/8/22	永利氏より損益分岐点に関する講義	永利

### 3. ベンチャー指導者育成と教経会の発足

2009 年から開始したベンチャー教育も 5 年目に入り、学内での認知度も向上してきた。しかし、その指導は特定の教員の負担の上に成り立っている。そこで、ベンチャーに関して指導できる人材を増やすことを目的として教経会（きょうけいかい）を発足させた。

教経会とは、教育・経営（経済）勉強会の略称で、経営・経済的知識を公認会計士である永利氏にご指導頂き、工学教育・経済感覚をバランスよく学ぶ場である（図 3）。

本会は、新たなベンチャー教育の担い手（高専教員）を育成するとともに、地場産業に対する知識・連携を深めることを目的としている。

表 2 に今までの開催日及び活動内容を示す。現在は、渋沢栄一氏の「論語と算盤」を基本テキストとして用い、時折、経済・経営関連の講義を配置している。

### 6. まとめ

これまでのコンテスト指導実績を基にして、技術教育に経営感覚を導入することにより、産学連携を軸としたベンチャー教育の担い手育成の環境整備を行った。今後は、更なる参加者の確保と教経会の実施内容の充実を図りたいと考えている。



図 3 教経会の様子(損益分岐点について議論)

#### < 教経会の目標 >

1. 教育、経営、経済に関する異分野交流
2. 地場企業と高専との新しい協力体制の探索
3. 若者の活躍の場（起業等）に関する検討

### 参考文献

- [1] 大学発ベンチャーに関する基礎調査，日本経済研究所，(2009)
- [2] 石川洋平，深井澄夫，佐藤三郎：高専・大学におけるベンチャー教育の可能性について，産学連携学会第 9 回大会，0617D1300-3，(2011)
- [3] 井上陽平，古賀直樹，杉本恭佑：大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテストへの挑戦，日本高専学会誌，第 17 巻，第 2 号，pp.54-55，(2012)
- [4] 石川洋平：コンテスト・ボランティアを活用した学生教育，日本高専学会誌，第 17 巻，第 2 号，pp.66-68，(2012)